

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500053		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム南流山		
所在地	〒270-0161 千葉県流山市鱈ヶ崎1311		
自己評価作成日	平成25年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-3-404
訪問調査日	平成25年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域住民の皆様にご理解を頂く為、地域の中心となるようなイベントを企画し、地域の皆様のご理解・ご協力などに力を入れております。 ・また、利用者様1人1人をよく知るということで、“その人に心から寄り添う”といったケアをしております。 ・職員に関しましては、“働いていて楽しいと思える場所”“やりたい介護ができる場所”といった環境に心掛け、事業所が大きな家族というテーマに心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・全職員が法人の運営理念等を記載したクレドカード等を持参し、会議などの際に唱和し意識の統一を図っている。入居者本人・家族から聞き入れた幼年時からの生活歴シートを作成し、一人ひとりを良く知ることに務め、本人本位の個別ケアを実践している。防災の面では、緊急連絡体制が確立され、単独事故発生時連絡票・緊急連絡先・事故対応マニュアル等が誰でも見えるところに貼ってあり、また全館にスプリンクラーが設置されている。ホーム長はじめ職員が明るく笑顔で入居者と接し、事業所がいかに楽しい家族の集まりのようであった。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社、事業所の運営理念は会議などの際には唱和を行い、休憩所にも掲示していることにより、職員の意識の統一を図っております。	法人の運営理念と事業所独自の介護方針を目につくところに掲示し、全職員がそれら理念等を記載したクレドカードを持参・各自の名刺の裏にも記載し、会議などの際に唱和している。入居者の生活歴シートを作成し個別ケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣小学校の下校時間時に、地域活動の一環として、「見守り隊」を行い、継続出来る様支援しております。また、地域新聞などを有効活用し自治会の催し物・小学校の行事にも積極的に参加しております。	自治会のふれあい演芸会や小学校の運動会・餅つき大会・敬老会等の行事に多くの入居者が参加している。小学生の登下校時の「見守り隊」は7年間も継続し、また地域のボランティアの方々に来て頂く等、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に住む地域の方が参加できる行事を企画し、それを通じて、理解していただける取組みを行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況、入居者様状況など写真も交えながら報告を行い、お互いが気楽に話をできるような関係作りにも気を配っております。また無記名アンケートなどを用いてご意見を頂いております。	運営推進会議用フォーマットに活動状況・入居者の写真を交え、議事録・改善内容等を記載し行政や家族等へ報告している。2月8日の長崎市のグループホームの火災を機に、地域の方々と一緒に5月頃消防訓練を予定している。	運営推進会議を活用し、日頃から地域の方々との密接な連携体制を確保し、消防関係者の参加を促し、具体的な訓練の実施に協力を得られる体制作りなど、定期的に避難・救出訓練等が行われることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際には随時参加をお願いし、御家族への活動報告と同時に事業所のサービス、取組みの状況を伝えております。	地域包括にも足を運び、2カ月に一度の割合で開催される市内十数ヶ所あるグループホームの連絡会に毎回参加し、市の担当者と顔の見える関係づくりをしている。またイベント内容の相談等によって頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議などで意識の統一性を図り、基本方針の掲示を行っております。また、ケア推進課など相談窓口などもあり身体拘束推進運動を会社全体で行っております。	身体拘束に関しての基本方針が掲示され、職員研修も行われ徹底されている。日中は玄関の施錠をせず、職員は目配り・気配り・チームワークを大切にしている。夜間転倒癖のある人には、家族と相談し足元センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のふとした話し方、接し方にも充分気を配り、また会議や研修を使い防止の為の指導を徹底しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	適宜ホーム内研修を行い、職員が入れ替わった場合でも、学ぶ機会をもつ事ができるように努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項説明書、契約書の読み合わせを行い、不安や疑問に対して説明をし、理解、同意を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見箱を設置し、会社として年に1回の御家族アンケートを行っております。御家族が来設の際には積極的に話し掛けるように心掛けております。	玄関にはご意見箱が設置され、苦情・相談等に対する対応文書も掲示されている。会社として年1回のご家族アンケートを無記名で行い、集計し各事業所へフィードバックされ、運営に反映されている。一泊旅行や夏祭り等をご家族と行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを大切にし、年1回の職員アンケート等も使い、意見を反映できるような取組みを行っており、会議等でも発言しやすい環境作りに努めております。	会議等では、リーダーが意見を言う前に各担当者から発言する仕組みを作っている。3カ月に一回程度職員間で食事会を実施するなど、積極的にコミュニケーションの場を設けている。ホーム長は、職員の気配を感じ取り、不安や悩みを拾い集めるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケート、表彰制度等があり、個々の実績、勤務状況の把握に努めるとともに、各々がやりたい事に対して、出来る限り取り組むことができるような環境整備を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社には、標準介護教育カリキュラムがあり、ホーム内で利用しております。全体会議などでのホーム内研修、外部研修の告知を行い、受講の機会を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内のホーム間研修、合同イベント等を通じ、他の事業所の取組みを学び、また相互の問題について考えあう機会を作っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい環境作りを行い、相談された際には、真摯に向き合い傾聴する時間を十分に持つことで、安心して生活していただけるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安や要望に耳を傾け、それを踏まえた上でのサービス計画を実施・アセスメントしていくことで良好な関係づくりに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人や御家族のニーズを探り把握に努め、その思いを一番に考えたサービスが提供できるよう取り組んでおります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に御本人を尊敬する心を持ち、一緒に家事を行ったり、話をする時間をとることで家族のような関係が築けるように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一泊旅行などをはじめ、御家族も参加できる行事を企画し、一緒に過ごすことで、共に支えていけるような関係作りを行っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の友人がいつ来られても、職員が対応できるように配慮しております。 また、御家族の協力の下なじみの人や場所の把握に努めております。	年賀状や書中見舞いづくりなどのお手伝いをする等、馴染みの関係の支援に努めている。利用者と映画・菊の展覧会・子供の集まる場所等へ行き、一緒に食事をする等の個別レクリエーションも大切にしている。そのとき見られる表情は職員へのプレゼントと思っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、互いに支える環境を提供できる取り組みを行っております。 また、利用者全員でゆっくり話をしたり外出したりする時間を大切にしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援を行い、気軽に顔を出せるような雰囲気作りをしており、築いた関係は大切にしていこうと努めています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から以前の暮らしや現在の希望、意向を聞きだし、職員間で共有しております。また御家族の話も聞き、統合的に検討しております。	利用者の患いの前の生活を想像し、その想像に一步でも近づけるよう努力を行っている。その意味で個別レクはより添いの一つの手段でもある。遠慮がちな利用者からも気持ちを汲み取る様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族からこれまでの暮らしについて伺い情報を集めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康記録と一日の過ごし方を個人記録に記入し現状の把握に努めております。また残存能力を把握する為に、実際に御本人と一緒に様々な事に挑戦しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の会議では、ケアマネージャー、ユニットリーダーが中心となり、サービス計画の実施状況、見直しを行っております。また日々職員間で情報交換を行い、御家族や関係者と話し合ったことをサービス計画に反映させております。	利用者調査ではこの設問への支持が高い。「介護に心がこもっている」との記述がある。ホーム長を中心に利用者への想いと理解が利用者を包み、ケアが実践され、利用者個々の記録と対応ノウハウが的確なサービスの裏付となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特変事項や会話、行動の変化を日報や個人記録に記入し、職員間で情報の共有を行っております。それを基に適宜話し合い、計画の見直しを行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「今その時」のニーズを大切に、迅速に対応できるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園芸を始め、傾聴、創作ボランティアをお願いしたり、地域新聞などを有効活用し、協働に努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医、御家族、ホームが相互の同意を基に、適切な医療を受けられるようにしております。内科以外の係りつけ医にも、御家族の協力も得て受診を行っております。	家族の同意を下に訪問診療の受診等、適切な医療処置を受けられるよう支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が気付いた時に、こまめに書きとめておく看護用の記録を別に作り、毎週水曜日には、どの職員が担当になっても訪問看護師に報告ができるようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院希望先を把握しており、入院の際にはこまめに訪問し、担当医、御家族、また施設の往診医との連絡を密にしながら早期退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における医療体制指針」を文書にて説明し、同意を得ております。	入所契約時に家族と可能な限りの意見交換を行い、心の準備がはできていても動転する家族への支援も大切にしている。また家族の判断を尊重するとともに利用者が安心されるよう見守り、ホームの医療体制指針に則り対応を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修や外部研修を行っております。救急対応マニュアルを基に、24時間体制で往診医との連絡がとれるようになっております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を消防署立会いのもと、行っております。日中想定、夜間想定などその時の状況に応じた避難の仕方を勉強する機会を設けております。	併設のデイサービス、ショートステイ職員等のうち緊急時対応職員(事業所から5分以内の居住者1名、10分以内居住者2名)を含めて防災訓練を実施している。九州事故以来必要とされているスプリングラダーは24年度内に全館設置を完了した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ通所時の声かけの仕方など、回りへの配慮を行い、また各々への居室へ入る時にも必ず許可を得るなど、プライバシーの尊重に努めております。	利用者に対する言動は全て職務権限規定等の遵守による。とりわけ利用者プライバシーに関しても厳しく遵守され、全てのことにあって利用者主体で考えるなど、組織内外研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間に、飲みたい物を書いていただく等、小さなことでも選択していただく機会を多くつくっております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の固定概念をなくし、柔軟な心で、何が大切なかを常に考えながら行動するようしております。多少困難な事でも、利用者の一瞬一瞬を大切にするように心掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時等には、化粧やお洒落をできる方にはご自身で行っていただいております日頃の服装もご自身で選んでいただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい料理を尋ね、献立作り、一緒に食事作りや盛り付け、配膳を行っております。また、食器洗いや片付けなども一緒に行っております。	食材の購入方法を含め利用者と一緒に考え決めている。また災害時の食糧確保としては品質の劣化を考え3日分ほど準備がある。しかし保存食の賞味期限など悩ましい問題もあるが、安全に食事を楽しんで頂く方法を検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェックして記入し、残すことが増えてきている方には、おにぎりにして形を変えるなど、その都度本人に合わせた提供を行い、栄養バランスの確保に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御本人の力に応じ、各々口腔ケアを行っており、毎食後欠かすことの無いように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に個々のパターンを把握しております。 夜間の様子は職員間で申し送りを行い、失敗を減らし、極力おむつ等には頼らない対策を考えております。	夜間の安眠を獲得しながら【就寝時のオムツゼロ】を目指している。パッド等を含め夜勤者が対応し、布やリハパンの活用でトイレ誘導を行い、無理は排除しながらゼロに近づきつつある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、オリゴ糖、またはセンナ茶などを用い便秘時も極力薬に頼らないように心掛けております。 また、運動の為に極力外に出る機会を作っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴中は、本人の意思を尊重し、職員が必要以上に介助を行わない様に心掛けております。 また、夜の入浴等、時間帯も幅広く対応しております。	入浴も昼と夜の入浴など、ご本人本位が貫かれている。利用者調査で家族は【さりげない接触の背後で細心の注意が張り巡らされ…】と自由記述に記している。夜間のケアといい入浴も、利用者は守られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時刻、起床時刻を設ける事をせず、御本人の意思に任せて休んでいただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の使用について理解し、適宜往診医へ相談しております。 変更があった場合も、全職員が把握できる体制になっており、その後の様子観察を行っております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の嗜好を尊重し、お酒の好きな人には晩酌の時間を設けております。 ピアノ、書道セット、絵画や写真を居室に置き、個人の趣味を活かせる様に配慮しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩に出かけ、買物の際には入居者様と一緒に行動しております。 月に1度以上は全員で観光等の外出や外食にも言っております。 また個別でもその機会を増やすように努めております。	外出支援に関しても家族からの支持と感謝が利用者調査に記され、大胆で積極的なプランニングで寝たきりの利用者が家族が手を引けば歩いた、とある。合唱祭や旅行など、大胆で前向きな発想に驚きかつ感謝している、と書かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別レク等、外出する機会も多いため、その際はお小遣いを渡し、会計の時も極力その方に払っていただけるように努めております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話は、いつでも使えるようにしており、外出先で買った御家族へのお土産がある時などは、すぐに本人から連絡をして頂き、自由に連絡がとれる様になっている事を分かって頂く様に努めております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	階段や通路に行事の写真を貼り、生活感のある雰囲気を作っております。 入居者様と一緒に作る手作りのカレンダーや、その月の行事内容を掲示し、季節感を感じていただけるように努めております。	麦わら色の、柔らかな光を含む内装が癒しと安住を感じさせる。スペースデザインが生かされている事業所建物は経営側の感性を感じてホッとする。幼児的掲示物はなく、さりげない居場所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本や雑誌、新聞などは身近に置いて誰もが読みやすくなっており、フロアに置いてあるソファでは、隣になった利用者同士気楽にコミュニケーションを取ることが出来るようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒や布団など、御自身の使用していたものを持ってきていただき、使いやすいように配置しております。また、仏壇を置いている方などは、朝、お供えのご飯や花の水替えを日課としております。	仏壇が綺麗に手入れされ、行き届いた支援が感じられる。尊厳が守られ、心の落ち着きを取り戻せる心地よさがある。体力後退を余儀なくされながら鋭くなる感性を制御できないその人に、この居場所は優しく、高齢者の感性に添う支援を感じさせる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安易に車椅子を使うことを避け、歩行器、杖等を使っていただき、廊下には手すりだけでなく、ベンチを置き現在持っている力を活かしていただけるよう工夫をしております。トイレや居室も本人に分かるようにマークや表札をつけております。		

目標達成計画(外部評価の作業終了後、事業所の皆様の合意で作成して下さい。)

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的
1	19	全ご家族様と施設の関係性は、築けていない状況であります。ご家族様が抱えている不安なども今後共有し、共に過ごしていかなければならないと考えます。	ご家族様同士のコミュニケーションをとる事で不安や悩みなども話しやすい環境を作る。	運営推進会議・ご家族様会交流会などを設けていく。
2	2	地域の皆様、常に目を向けて頂けるようにしていかなければならないと考えます。	地域の皆様方がより事業所、認知症の皆様との関わりを持って頂けるようにする。	1・定期的な地域に向けての加して頂く。 2・イベントを通じ、利用者様や職員との関係性の構築を
3				
4				
5				

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。